

世界旅打ち気分

●第65回・パークスとブレイン

須田鷹雄



写真1) パークス競馬場(ハーネス)のファンエリア



写真2) 地元婦人会が運営する場内の食堂



写真3) 向正面の景色が広々としているブレイン競馬場

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

先月はオーストラリアのNSW州・コンドボリンの話を書いたが、今回はその前後に行ったハーネスの競馬場を2つ紹介しよう。

ひとつは、パークス競馬場。前回触れたように、シドニーからリージョナル路線が設定されているくらい「ちよとした町」である。ウィキペディアによると人口は1万1千人程度とのことなので都市とまでは言えないが、一応2大スーパーのウォルワースとゴールズが両方あるし、ホテル・モーターの類もそれなりの軒数あるし、立派な町ではある。

このパークスには、平地競走の競馬場もある。1986年開場で最初のパークスカップは1987年に行われたというから、かなり歴史のある競馬場だ。現在はビクニック競馬(アマチュア騎手のみが騎乗できる競馬)として年に1日だけ6月に開催されているようだ。前回ご紹介したコンドボリンもビクニック競馬で路面はダートというか砂だったが、グーグルマップの衛星写真で見ると、パークスは芝コースのようである。

この平地場は町から南東方向に少し離れたところにあるのだが、

私が行ったハーネス場のほうは住宅街の端のほうにある。この競馬場には前年も行くところとしていたのだが、コンドボリンの開催が競馬場移動になったうえに、あつたはずのパークス開催がいつの間になくなっていて、パークス空港で車を借りだしたあと非開催日に立ち寄りだけに終わっていた。

幸い今年当初のスケジュール通りに開催が行われたので、モーターに荷物を置いてナイトー開催の1レース目から参加してみた。

前年も現場を見ているので薄々分かってはいたのだが、現場はいつだってシンプル。写真1がファンの滞留エリアから馬券売り場の方向を見たもので、これが競馬場のほぼ全貌である。全貌は言い過ぎだが、ファンが過ごすエリアの半分ほどはここに映っている。この写真の右手にはバーがあり、レースブックはそこで買う。写真の背後には地元のおばちゃんたちが運営する食堂・売店があり、この食堂はなかなかの当たりだった。

入場人員はせいぜい50人というところだからメニューの選択肢が少なくても文句の言えないところ

ろだが、ステーキサンドイッチ、チキンバーガー、フィッシュアンドチップスなどちゃんと選択肢があり、ソーセージロールなどのつまめるものもある。しかもチキンバーガーが10ドル(約1000円)なので、いまだきの豪州物価としては安い。

私はここで、「Savoury Minch(ご飯)10ドルと、巨大春巻き5ドルを注文した。「Savoury」の意味は正直分かっていなかったのだが、あとで調べたら「おいしい」だった。言ってみればあまり辛いくないキーマカレーのようなもので、実際けっこうおいしかった。写真2で店内の雰囲気も分かってもらえるところが、こんな小さい競馬場にちゃんと食堂があり、街中の基準でも「おいしい」と言えるものが食べられたことは、なかなかの感動であった。

馬券のほうはというと、TAB(オーストラリアの馬券公社)が1窓に、ブックメーカーが最初は2窓に、

最初に、というのは途中で1台帰ってしまったからである。3レースが終わってしばらく経ったころだったろうか。「雷雲が近づいているの

で次のレースは発走を遅らせませす」とアナウンスがあり、そのまま待機させられた。待機時間は10分や20分というのではなく、延々と待たされた。気が付くと、2台いたブックメーカーの片方がいなくなっており、もう1台は屋根のあるところに移動していた。「ブックメーカーの早退」ははじめて見るものだった。

結局レースは1時間以上経って再開されたのだが、その間ファンは文句を言うまでも気にするでもなくただ待っていた。なかなかオーストラリアらしい光景だ。

ちなみにこのパークス競馬場は、横にRVパークが併設されている。なのでキャンピングカーで来れば「競馬場に泊まる」という体験もできようになっている。

このほうが近い年代に更新されている。ただ、基本的な規模は似たりよつたりである。

パークスではレストランというかカフェを「地元婦人会」が取り仕切っていたが、ブレインでは「子供会」とその親が仕切っているという感じで、そのぶん食べ物選択が難しい。ステーキサンドイッチを名乗る「焼いた肉を食パンに挟んだやつ」の1択だったが、オーストラリアで田舎の競馬場に行くというこのことはよくある。

このブレインは、向正面側の景色が素晴らしかった。なにしろ人口3000人かつ中心部からは離れているので、高い建物などは一切ない。写真3でその雰囲気を感じていただけたらだろうか。

屋根ゾーンの端のほうに出ると吹き込む雨でびしょびしょになってしまふ状況だった。私は傘があつたのでレースの間には車に戻ってビバークしていたのだが、ほとんどのファンは気にすることなく雨に濡れながらビールを飲んでた。オーストラリアは極端な天気がしばしばあるので、あの程度で気にしてはいられないのだろう。

オーストラリアらしいな、と思ったのは最終レース。最終レースということもありコーナーあたりから場内アナウンスはテンションを上げ、直線に入ってから煽りに煽った。しかし……「ゴール板を過ぎたところで」あ、すいません、あと一周ありました」

もうひとつのブレイン競馬場は、町とも呼べない人口3000人ほどの村にある。ひよとすると日本人でブレインに泊まったのは自分だけなのではないかと思うくらい田舎だ。

パークスもこのブレインも競馬場が「ショーグラウンズ」という共進会、品評会の会場を兼ねており、施設としてはおそろしくブレイン

この写真を撮ったときは暑いくらい天気だったが、1レースごとに雲行きが怪しくなり、途中からは暴風雨と呼んでもよいくらいの状態に。パークスでの経験があつたのでこれはいったん開催が停止されるかと思つたが、こちらは粛々とレースを続け、最終レースまで定刻通りに実施された。

ただ、ファンの人数に対して「屋根のある場所」が限られており、

場内大爆笑。拍手も起り、むしろ普通に実況するより盛り上がったかもしれない。このあたりはおおらかというか鷹揚なオーストラリアらしいところだ。

それにしてもこの日のブレインは普通にTABで売られていたので、SKYレーシングでの中継もあつたはず。各家庭のテレビ前でも爆笑が起きていたのだろうか。